

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AU320／哲学講義 3 (Lectures on Philosophy 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	芸術論1		
担当者名 (Instructor)	五十嵐 J. (IGARASHI JANNU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	PCW2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

旧石器時代洞窟壁画研究の現状を学び、それをてがかりにヒトとは何か、ヒトはなぜ生き延びることができたのかという哲学的・人類学的な問いに自ら考察を加えることができるようにする。

This course aims to teach the actualities of researching paleolithic cave art, so that students can consider philosophical and anthropological questions: "What is a human being? Why did human beings survive until now?"

授業の内容 (Course Contents)

ホモ・サピエンスの一部がアフリカ大陸を離れ、ユーラシア大陸に移動し、世界中に拡散した。西へと向かったホモ・サピエンスは自然主義的な美術を開花させた。それがヨーロッパ後期旧石器時代美術である。耐久性のある支持体に残された美術は何万年も経た現在でも見ることができる。ラスコー、ショーヴェ、アルタミラなどフランスやスペインで数多く発見されている。岩壁という動かすことのできない支持体を用いた洞窟壁画はよく知られている。また、オーストリアのヴィレンドルフの「ヴィーナス」像など、石や骨や牙など動かすことができる支持体を使った動産美術がある。本授業では、洞窟壁画、動産美術、さらに装身具に関する研究についても紹介する。技法、年代決定法、主題、解釈、社会、人類学など様々な視点から当時の美術、ヒトにとっての美術について考える。

Some groups of homo sapiens departed from Africa to Eurasia and then migrated all over the world. Homo sapiens who went to the West developed naturalistic art, that is, Upper Palaeolithic Art in Europe. The art on durable rock still remains even after tens of thousands of years. Cave art on immobile rock in France and Spain is well known: Lascaux, Chauvet, Altamira, and so on. Venus figurines, for example, the Venus of Willendorf in Austria, are transportable, so we call such objects made of small stones, bones, and ivories "mobile art." In this course, studies of cave art, mobile art, and accessories are presented. Students consider Paleolithic art from many views: technique, dating, theme, interpretation, society, anthropology, and so on.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション：ラスコー洞窟(フランス、ドルドーニュ県)を中心に
洞窟壁画の動物主題：ウマ、バイソン、マンモス
2. ショーヴェ洞窟(フランス、アルデシュ県)やルフィニャック洞窟(フランス、ドルドーニュ県)を中心に
動産美術(1)：彫像(女性小立像、動物彫刻など)
ヴィレンドルフ(オーストリア)、ドルニ・ヴェストニツェ(チェコ)を中心に
3. 洞窟壁画の記号：テクティフォルム、クラヴィフォルム
フォン＝ドゥ＝ゴーム洞窟やレ・コンパレル洞窟(フランス、ドルドーニュ県)を中心に
4. 動産美術(2)：線刻画、浮彫り
ラ・ヴァッシュ洞窟(フランス、アリエージュ県)やラ・マドレーヌ岩陰(フランス、ドルドーニュ県)を中心に
5. 洞窟壁画の解釈：「芸術のための芸術」、狩猟呪術、増殖のための呪術、トーテミズム、シャーマニズム、神話、象徴など
レ・トロワ＝フレール洞窟(フランス、アリエージュ県)を中心に
6. 動産美術(3)：装飾された道具や装身具
マス＝ダジル洞窟(フランス、アリエージュ県)を中心に
7. 洞窟壁画の年代決定法(1)：相対的年代決定法、様式論(ブレイユとロワ＝グーラン)
ペール＝ノン＝ペール洞窟(フランス、ジロンド県)を中心に
8. 洞窟壁画の年代決定法(2)：「直接的」年代決定法(放射性炭素年代測定法)、壁画を覆う方解石の年代(ウラン系列法)
クーニャック洞窟(フランス、ロット県)やショーヴェ洞窟(フランス、アルデシュ県)を中心に
9. 美術の「誕生」
ブロンボス洞窟(南アフリカ)を中心に
10. 認知考古学、進化心理学、ホモ・サピエンスの拡散、そして中石器時代、新石器時代へ
スペイン・レバント美術など
11. 洞窟壁画の技法、絵具
ニオー洞窟(フランス、アリエージュ県)を中心に
12. 旧石器時代美術の発見史と保存について

- アルタミラ洞窟(スペイン、カンタブリア州)を中心に
14. 補足説明(日本の更新世美術:旧石器時代、縄文草創期)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート(40%) / 出席態度(30%) / 報告(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 五十嵐ジャンヌ、2021、『なんで洞窟に壁画を描いたの?: 美術のはじまりを探る旅』、新泉社 (ISBN:9784787720276)
2. 海部陽介、五十嵐ジャンヌ、佐野勝宏、2016、『世界遺産ラスコー展』、毎日新聞社、TBS テレビ
3. P.アッコー、A.ローゼンフェルト、1971、『旧石器時代の洞窟美術』、平凡社
4. 横山祐之、1992、『芸術の起源を探る』、朝日新聞出版社 (ISBN:4022595418)
5. D.ルイス＝ウィリアムズ、2012、『洞窟のなかの心』、講談社 (ISBN:4062176130)
6. 港千尋、2001、『洞窟へ一心とイメージのアルケオロジー』、せりか書房 (ISBN:4796702334)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

洞窟壁画のヴァーチャル見学(フランス語、英語、スペイン語)サイト
ラスコー洞窟(フランス、ドルドーニュ県)
<http://archeologie.culture.fr/lascaux/fr>
ショーヴェ洞窟(フランス、アルデシュ県)
<http://archeologie.culture.fr/chauvet/fr>
フォン＝ドゥ＝ゴーム洞窟(フランス、ドルドーニュ県)
<http://font-de-gaume.monuments-nationaux.fr/fr/>

注意事項(Notice)